

第二部

質の高い緑化のための指針



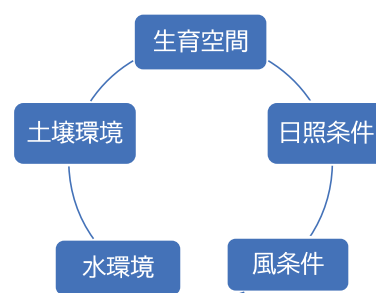
第一章 質の高い緑化手法について

この章では、本ガイドラインの冒頭(p.3)で示した理念に基づき、質の高い緑化を実現するために必要な手法について紹介します。

理念Ⅰ「育み、つなぐ緑化」を実現するために

Ⅰ-1 持続可能となる植栽計画

植物は生き物なので、植栽された場所で日光や雨水を浴びながら生長していきます。市街地の環境は植物にとっては厳しい場合が多く、植物が健全に生育し続けるためには、次の5つの観点から植栽計画を立てる必要があります。



持続可能となる植栽計画の要素

① 生育空間の確保

中高木の植栽位置の検討に際しては、将来の樹形を考慮した植栽間隔とするとともに、建築物や敷地境界線などから十分距離をとることで生育空間を確保します。十分な生育空間が確保されていないと、その後の管理が難しくなり、樹形の乱れや枝葉の越境などのトラブルが起こりやすくなります。

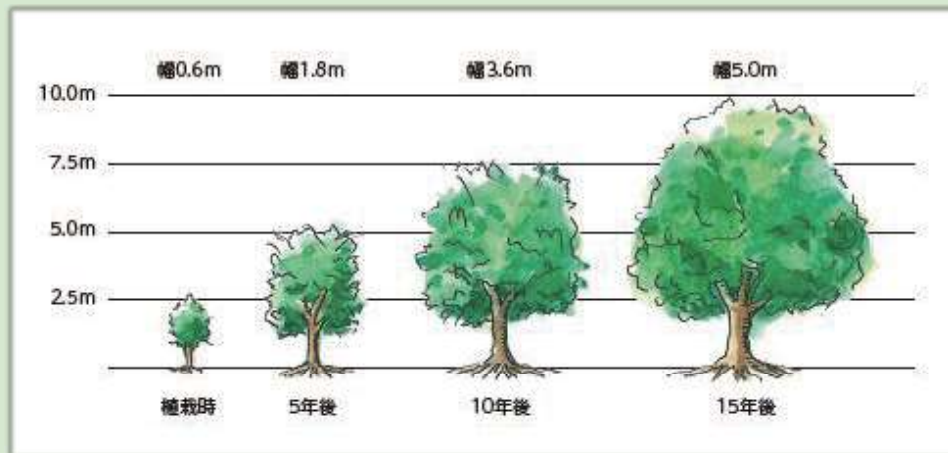
効果	● 自然樹形を活かしたのびのびとして美しい生育を見込むことができます。 ● 風通しが良くなることで病虫害発生リスクが低くなります。 ● 剪定の頻度を減らすことができます。
取組み	1) 中高木について、将来の樹冠の大きさを検討します。 ※樹種によって生長する大きさや形は異なります。 2) 同じ規格の樹木の樹冠同士がなるべく重なり合わないよう植栽位置を決めます。 3) 樹木が生長した際に、建築物への接触や敷地外へのはみ出しがないような植栽位置とします。 4) 中高木を寄せて植栽する場合には、隣り合う樹木との樹高に差をつけます。
【生育空間を広く確保することで樹形が映える樹種の例】	
アラカシ、エノキ、クロマツ、ケヤキ、コブシ、サクラ類、シラカシ、スダジイ、モチノキ、モミ、モミジ類、	
【比較的狭い空間での植栽にも向く樹種の例】	
アメリカザイフリボク、イヌマキ、エゴノキ、カクレミノ、キンモクセイ、コノテガシワ、ソヨゴ、ナツツバキ、ニオイヒバ、ハナミズキ、ヒメシャラ、ヤマボウシ、リョウブ	

★生育空間確保のポイント

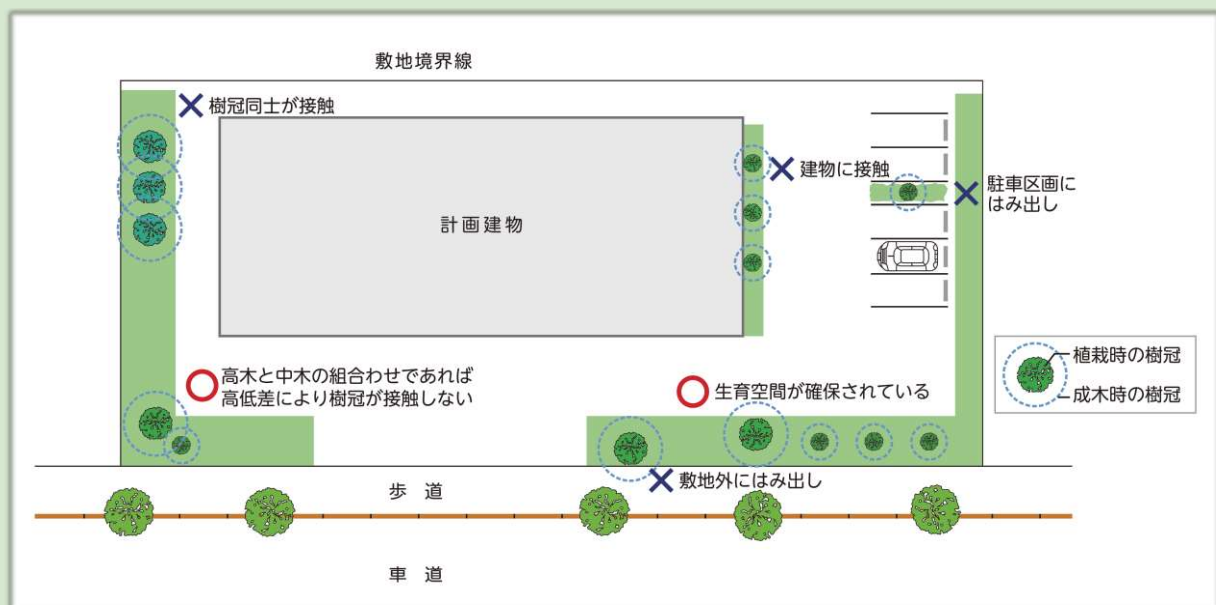
樹木は年々生長して大きくなりますが、その生長速度は樹種によって大きく異なります。生長速度の速い樹種では一年で樹高が100 cm程度伸び、遅い樹種では一年で10 cm程度となります。樹木の枝張りの大きさは、未成木の時点では樹高の半分以下ですが、根の伸長範囲に応じて大きくなっていき、樹種によっては枝張りとう樹高との比率が近くなる程に大きくなります。

剪定によって樹木の大きさをコントロールすることはできますが、ある程度大きく育てることをしないと、樹木を美しく健全に維持することは難しくなるので、生育空間に余裕を持たせましょう。

樹木の生長イメージ



樹木配置の良い例・悪い例



② 日照条件

敷地内の日照条件を考慮して、植物の生育に十分な日当たりが得られるように、植栽場所と植栽内容を検討します。

効果	● 日照条件に応じた植栽計画とすることで、植物が健全に生育するだけでなく、場所ごとに植栽内容が変化することで、メリハリのある緑化となります。
取組み	1)建築物との位置関係や周囲の環境条件などから、敷地内の日照条件を確認します。 2)日当たりの良い場所を優先的に、植栽場所を検討します。特に花木は日当たりの良い場所に配置します。 3)建築物の北側やその他構造物で日陰になる場所など、あまり日の当たらない場所で緑化をする場合には、耐陰性の高い植物を選びます。 4)仙台では冬は冷え込むことから、耐寒性の低い樹種はなるべく避けます。
【耐陰性の高い植物の例】 中高木：アオハダ、アスナロ、カクレミノ、カヤ、シャクナゲ、ソヨゴ、ダンコウバイ、ドイツトウヒ、マユミ、メタセコイア、モチノキ、モミ、ヤブツバキ、ユズリハ、 低木：アオキ、アセビ、シャリンバイ、ジンチョウゲ、ナンテン、サカキ、マサキ、マンリョウ、ヤツデ、ヤマツツジ 地被類：サルコッカ、セイヨウイワナンテン、タマリユウ、ツワブキ、ノシラン、ハラン、フッキソウ、ベニシダ、ヤブコウジ、ヤブラン、ユキノシタ、リュウノヒゲ	
【耐寒性の低い樹種の例】 カイコウズ、クスノキ、シマトネリコ、センリョウ、ハイビスカス、ホルトノキ、ヤシ類、ユーカリ	

③ 風条件

植栽場所が屋上や海辺付近、ビル風の吹く場所などの場合は、乾燥や寒さによる枯損を防ぐために、樹高や樹種の選定、施工方法に留意します。

効果	● 強風への対策を行うことで樹木が根付きやすくなり、生育した樹木は建築物に吹き付ける強風を和らげてくれます。
取組み	1)屋上や海辺付近では樹高の高い樹木は根付きにくいことから、高木を植栽する場合でも樹高3m以下を目安とします。 2)樹木が十分に生長するまでの間、支柱を設置するほか、幹巻や防風ネット、マルチング材などにより保護をします。 3)本市の東部地域等の潮風が吹く場所では、耐潮性の高い樹種を選びます。
【耐乾性の高い樹種の例】 アカマツ、アセビ、アベリア、コナラ、コノテガシワ、ニオイヒバ、ハイビャクシン	
【耐潮性の高い樹種の例】 アキニレ、イヌマキ、ウバメガシ、エノキ、オオシマザクラ、カイヅカイブキ、クロマツ、サンゴジュ、シャリンバイ、スダジイ、タブノキ、トベラ、ネムノキ、ハイビャクシン、ハコネウツギ、ハマナス、ハマヒサカキ、マサキ、マテバシイ、モチノキ、モッコク、ヤツデ、ヤブツバキ、ユズリハ	

④ 水環境

プランターや屋上などの土量の少ない人工地盤や、屋内やピロティなどの降雨の当たらない場所では、人工的に水をやる必要があるため、規模に応じた灌水設備を整備します。

効果	● 灌水設備を整備することで、日常的な管理がしやすくなります。
取組み	1) 灌水の必要な植栽範囲を想定して散水栓を設置します。 2) 灌水範囲が広い場合や屋上などでは、自動灌水装置が有効です。 3) 屋根に降った雨水などを雨水タンクに貯めておき、その水を灌水に利用すると、雨水を有効利用することができます。

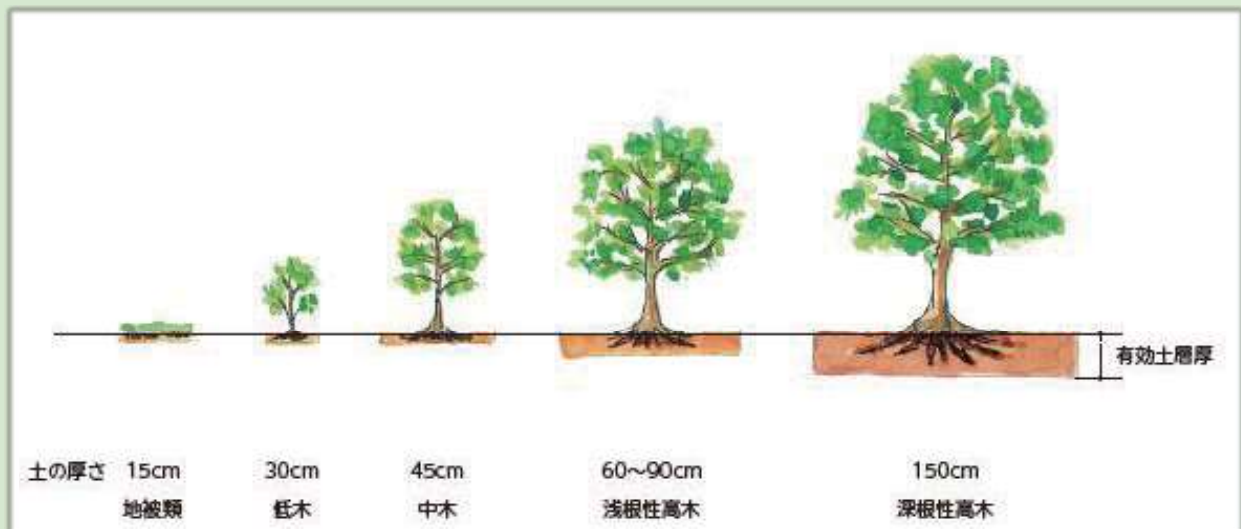
⑤ 土壌環境

植物の生育基盤となる土壌は、土の状態や厚さなどの観点から整備をします。

効果	● 良好な土壌環境により植物が健全に生育し、根上がりによる舗装の盛り上がりやひび割れを防止することができます。
取組み	1) 植物が十分に根を伸ばすための有効土層厚を確保します。プランターや屋上などでは特に土量が十分であるか留意します。 2) 土壌の通気性や透水性を確保するため、土壌改良材の混入や客土をします。 3) 土壌の硬度が高すぎると生育不良の原因となるため、土壌の耕起を行い、過度な転圧をしないように留意します。 4) 樹木の周囲が舗装となる場合は、根の伸長空間を確保することで根上りを防ぎます。 5) 歩行空間に近接して樹木を植栽する場合は、植栽基盤が直接踏まれないように、ツリーサークルなどにより踏圧対策をします。

★有効土層厚の確保のポイント

有効土層厚とは、植物が容易に根を伸ばすことができる、土壌環境が整った土層厚のことを言います。下図を参考に有効土層厚を確保しましょう。



I-2 適切な維持管理計画

緑化は植えて終わりではなく、その後も健全に育て、美観を保つために、日常的に適切な維持管理を行う必要があります。特に植栽直後は、植物が根付くまでを養生期間として、手厚く管理します。建築物の装飾ともいえる敷地内の緑化の維持管理を行うことは、建築物の身だしなみを整えることと言えます。

日常の維持管理を誰が、いつ、どのように行うのかという視点で、事前に管理体制と管理計画を定めておきましょう。また、なるべく維持管理を行いやすい緑化計画にしましょう。

年間管理計画の例（⇔：作業適期）

作業内容	作業回数	作業時期											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
灌水	適宜			⇔	⇔	⇔	⇔						
除草	適宜	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔					
剪定(落葉)	1回				⇔	⇔			⇔	⇔	⇔		
剪定(常緑)	1回		⇔	⇔			⇔	⇔					
刈込(低木)	2回		⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔					
刈込(芝)	4回		⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔					
施肥	1回			⇔	⇔	⇔	⇔						
病虫害防除	適宜		⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔					

① 灌水

時期や場所によっては、自然降雨だけでは水分が不足することがあるため、適宜灌水を行います。

時期	植栽直後(10日程度)と日照りの続く夏季。ただし人工地盤上では日常的に必要。
取組み	1) 土壌の表面が乾燥していたら灌水を行います。 2) 灌水の時間帯は日中を避け、朝か夕方に行います。

② 除草

雑草が繁茂してしまうと、緑地の美観を損ねるだけでなく、雑草が日照や水分、土壌用分などを奪ってしまい、植栽した植物が枯損してしまうこともあるため、適宜除草を行います。

時期	夏季前後の年2回以上
取組み	1) 人の手で雑草の根ごと抜き取る抜根除草は、時間はかかりますが、除草の頻度が低く済みます。 2) 草刈機による除草は、時間は短く済みますが、雑草の再生が早いため、抜根除草に比べ頻度は高くなります。 3) 除草剤は周囲の人や環境、雑草以外の植物へ悪影響が及ぶおそれがあるため、なるべく使用を控えます。

③ 剪定・刈込

樹木を剪定して樹形を整えることで、美観の保持や安全の確保となるほか、病虫害発生や枝折れの防止となります。生垣や低木は刈込みにによって形を整え、芝生も年に数回の芝刈りを行います。

時期	落葉樹：夏季と冬季 常緑樹：秋季 芝生：夏季前後
取組み	1) 樹種ごとの自然樹形を考慮して樹形を整えるように、枯れ枝や飛び出した枝などから剪定します。樹高に対する樹冠の割合が6～7割であるとバランスが良いと言えます。 2) 樹形を無視して枝を切り詰めすぎる強剪定は、美観を著しく損ねるだけでなく、樹木の病気や枯損につながるため、行うべきではありません。強剪定を行わなくて済むように、生育空間にゆとりをもたせるほか、計画的に剪定を行います。 3) 生垣は上枝を強く、下枝を弱く刈込みます。低木の刈込みは形を整えるほか、植栽場所によっては視界確保も考慮して行います。 4) 芝刈りは芝の生育が旺盛な時期に数回行いますが、低く刈込み過ぎると芝が衰弱するため、草丈20～30mmを目安とします。

④ 施肥

植物の良好な生育や、開花の促進のために、施肥を行います。

取組み	1) 未成木や花木、草花などには、適宜施肥を行います。
-----	-----------------------------

⑤ 病虫害防除

病虫害は樹木の生育を妨げるだけでなく、人に対しても被害が及ぶこともあるため、予防と早期発見に努め、発生した場合は速やかに除去します。

取組み	1) 人手や防虫網によって害虫を物理的に除去します。 2) 被害を受けた枝葉は剪定します。 3) 薬剤散布は周辺環境へ悪影響を及ぼすおそれがあるため、なるべく使用を控えます。やむを得ず使用する際には、人通りが少ない時間帯や無風時に行うなど、十分留意します。
-----	---

★維持管理がしやすい緑化計画のポイント

次のポイントに留意した緑化計画とすることで、緑地の維持管理が比較的しやすくなります。

① 高木や中木は植栽間隔を空ける

高木や中木は植栽間隔を適度に空けることで生育空間に余裕が生まれ、必要な剪定の回数が少なく済みます。過密に植栽してしまうと、頻繁に剪定が必要となるだけでなく、樹木が大きくなるにつれて樹形を保つことが難しくなります。

② 低木や地被植物は密植とする

低木や地被植物は密植とすることで雑草を抑えることができ、管理の手間が少なく済みます。植栽密度が不足すると隙間から雑草が生え、除草の手間が増えてしまいます。タマリユウなどは36株/㎡以上で植栽することが望ましいです。芝生による緑化は案外、管理の手間がかかります。

理念Ⅱ「豊かで快適な暮らしを支える緑化」を実現するために

Ⅱ-1 緑視効果を高める緑化

目に映る緑の量が多いことによって、見る人に安らぎや心地良さを与えるほか、リラックス効果やストレス軽減の効果があります。緑視効果に関する様々な実験では、人が緑を眺めることで副交感神経の活動が高まり、ストレスホルモンの分泌量が減少するなど、リラックス効果を実証する結果が確認されています。また、敷地内で人目に触れやすい場所に緑があることで、建築物による圧迫感も軽減されます。

① 接道部を緑化する

効果	● 街を訪れた人の視界に多くの緑が映り、敷地や街全体が緑豊かな印象となります。 ● 中高層建物の連続などによる、通りの歩行者への圧迫感を軽減します。 ○ 道路空間に木陰ができることで、街路樹とともに快適な歩行空間を創り出します。
取組み	1)接道部を樹木などにより緑化します。 2)道路側から人の目線で植栽が見えるようにします(構造物などで隠さないように)。 3)生長した樹木の枝などが敷地外へはみ出さないよう考慮して植栽位置を検討します。 4)歩行者が屋内や広場などに入る動線を障害しないように留意します。

●:「緑視効果を高める緑化」に関する効果 ○:その他の効果



② 階層的に緑化する

効果	● 足元から頭上まで階層的に植物を配置することで緑の立体的なボリュームが増し、緑視量が増大します。 ● 接道部緑化と併せて行うことで、敷地や街全体の緑豊かな印象がより一層高まります。
取組み	1) 高木、中木、低木、地被類をそれぞれ組み合わせ合わせて植栽します。木陰になる部分の植栽は、耐陰性のあるものを選びます。 2) 樹形や葉の形、花・紅葉の時期など多様な植物を組み合わせると、見た目や季節感に変化があり、楽しい空間となります。



③ 壁面を緑で彩る(植栽基盤取付け型)

効果	● 建築物の壁面を利用することで、より高い場所の緑化が可能となり、歩行者の視界により多くの緑が映ります。 ● 建築物の壁面による圧迫感を軽減することができます。 ● つる性植物だけでなく、様々な草花やカラーリーフを用いることで彩りあるデザインとなり、人目を惹くアイストップとして、施設のイメージアップにも機能します。
取組み	1) 道路に面した高さ 10m以下の場所など、人の目線に入りやすい高さに設置します。 2) 様々な種類の植物を組み合わせ合わせて緑化します。



☆植栽基盤取付け型の壁面緑化とは

従来型の壁面緑化のように地面に植えたつる植物を壁面に登はんさせるのではなく、土壌や灌水装置などの植栽基盤を壁面に取り付けて緑化する手法を言います。施工時点から緑化が完了し、多様な植栽が可能なのがメリットとなります。壁面にパネル等を取り付けるタイプやプランターを設置するタイプがあります。

④ シンボルツリーを植える

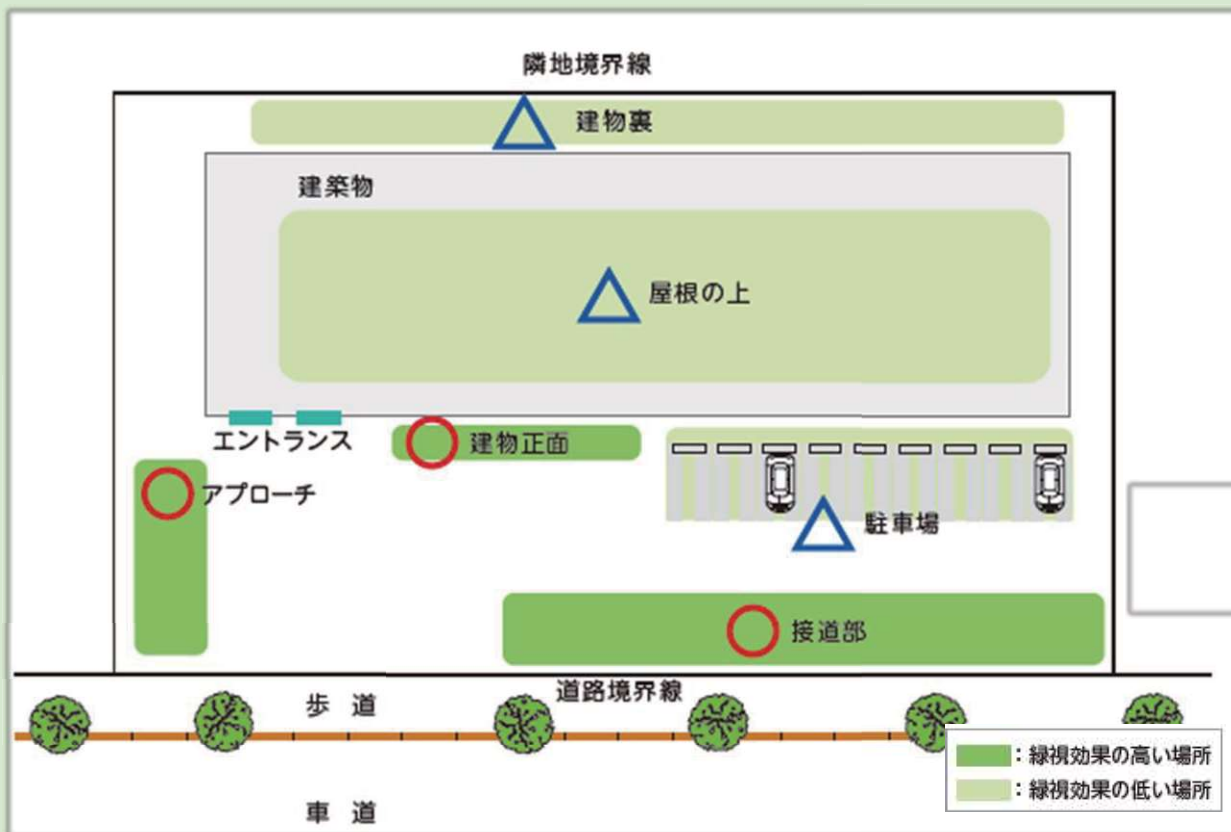
効果	● 大きなのびのびと育った樹木はアイストップとして人目を惹きつけます。 ○ 大きな樹木はその場所のシンボルとして親しまれ、年月とともに風格や文化的価値を高めていきます。
取組み	1)シンボルツリーが枝葉や根を十分に広げられるよう、またシンボルとして際立つよう、周囲に十分な生育空間を確保します。 2)多くの人にとって見やすい位置、人が集まりやすい場所に植栽します。 3)シンボルとしてふさわしい樹形の良いものを植栽します。

●：「緑視効果を高める緑化」に関する効果 ○：その他の効果



★緑視効果を高めるポイント

緑視効果の観点から、人の目に入りやすい場所を優先的に緑化しましょう。



コラム 仙台市のみどりの特徴

仙台は杜の都と呼ばれるとおりの緑豊かな都市であり、市全域の緑被率は約8割、市街地の緑被率も約3割となっています。

仙台のまちは周囲を豊かな自然環境に囲まれており、西部には奥羽山脈をはじめとする雄大な山々がそびえ立ち、市街地の周辺には地域のシンボルである青葉山や太白山などが景観に風格を与えています。東部には歴史的風景を留めた田園が広がり、海岸には人々を守る防災林が再生しつつあり、山と海との間には広瀬川や七北田川などの河川の流れがまちを潤しています。こうした自然環境が杜の都を形づくる「みどりの骨格」となっています。

まちなかには、これまで人が育んできた都市のみどりがあり、青葉通や定禅寺通に代表される美しい街路樹がみどりの軸となり、西公園や勾当台公園などの公園緑地は市民が賑わうみどりの拠点となっています。建築敷地内に植栽されたみどりは個々の建築物を引き立てるだけでなく、緑豊かな街並みを演出しています。これらの都市のみどりが一体となり、「みどりのネットワーク」として自然とまちとをつないでいます。

このように豊かな自然と都市機能が調和した環境は、「杜の都・仙台」の都市個性であり、市民共有の財産と言えます。仙台市では「百年の杜づくり」を掲げており、市民・市民活動団体・事業者・行政が協働して、杜の都の環境を創造し、未来へ継承していくこととしています。

☆百年の杜将来イメージ



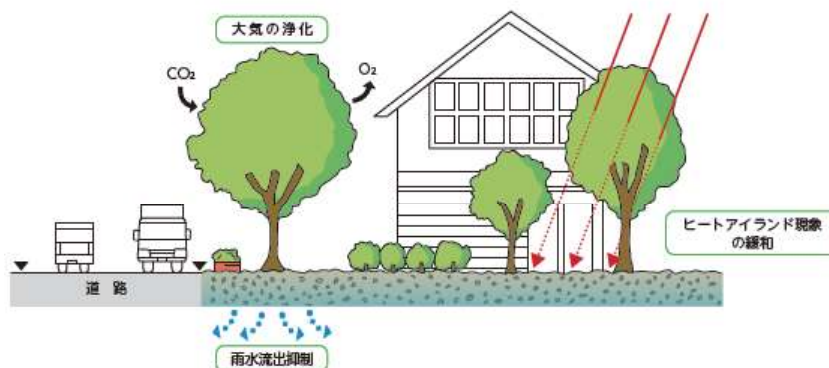
「仙台のみどりの基本計画 2020-2030」より

Ⅱ-2 防災・減災、都市環境の緩和に取り組む緑化

近年、地球温暖化を一因とする気候変動により引き起こされる豪雨などの自然災害や、熱中症などの健康被害が増加しています。こうした気候変動による影響のリスクを低減するため、緑の持つ多様な機能を活かすグリーンインフラによって、雨水流出量の抑制やヒートアイランド現象の緩和などに取り組むことができます。また、植栽により建物周りの熱や風、音などの影響を緩和することができます。

① 地表面を緑化する

効果	● 植物は葉から水蒸気を放出する蒸散により空気を冷やし、周囲との温度差により微風が発生します。また、高木などの樹冠は日中の日差しを和らげ、地表面を覆う植物は地中への熱の蓄積を防ぎ、こうしたはたらきによってヒートアイランド現象を緩和します。 ● 植栽と土壌の浸透能力により雨水を地下へ浸透させ、雨水流出量を抑制します。 ● 植物の葉は二酸化炭素を吸収して、酸素を放出することで脱炭素の取組みにつながります。また、空気中の汚染物質を吸着・吸収することで大気を浄化します。
取組み	1)地表面(自然地盤)への緑化を優先して行います。 2)落葉樹は季節に応じた日差しの調節ができます。



☆グリーンインフラとは

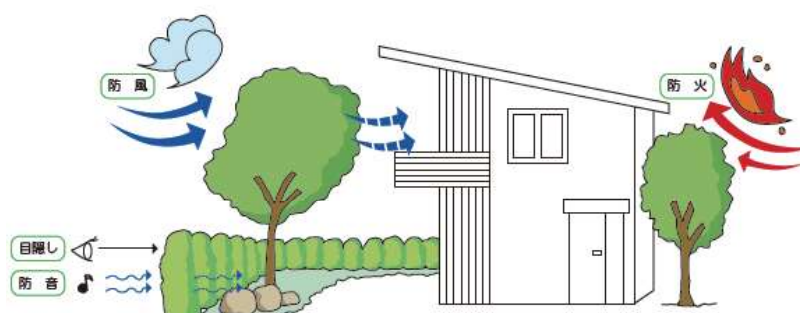
「コンクリート等の人工構造物による従来型の都市基盤(グレーインフラ)に対して、良好な景観形成やヒートアイランド現象の緩和、水害リスクの低減など、自然環境が持つ多様な機能に着目し、それを都市基盤として活用するという考え方(取組み)」のことをグリーンインフラと言い、近年、世界的に取り組みが進められています。

建築敷地内においても、本章で紹介するような緑の機能を活かした緑化をすることで、グリーンインフラに取り組むことができます。

② 樹木で緩衝をつくる(生垣)

効果	● 敷地境界部に並ぶ樹木が目隠し、防音、防風などの様々な緩衝となります。 ● 火災時には、葉が含む水分により延焼防止の効果も発揮します。 ○ 塀やフェンスよりも圧迫感が少なくなります。
取組み	1)敷地境界に沿って一定間隔に中・高木を植栽します。 2)生長した樹木の枝などが敷地外へはみ出さないよう考慮して植栽位置を検討します。
【生垣に向く樹種の例】 イヌツゲ、カナメモチ、サカキ、サザンカ、サンゴジュ、トキワマンサク、マサキ、ヤブツバキ、	

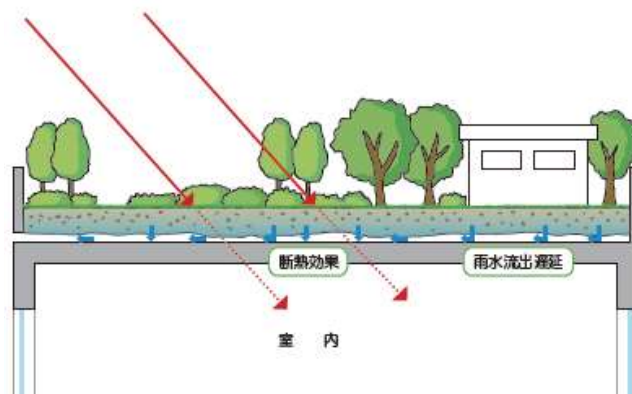
●:「防災・減災、都市環境の緩和に取り組む緑化」に関する効果 ○:その他の効果



③ 屋上を緑化する

効果	● 屋上を覆う植栽は断熱効果があるため、夏季には室内の温度上昇を抑え、冬季には保温をすることができ、その結果、空調の消費電力が抑えられるなど省エネ効果があります。植栽基盤の土壌が厚いほど、断熱効果は高くなります。 ● 屋上に降った雨水を土壌が一時的に貯留することで、雨水流出の遅延効果があります。 ○ 屋上を緑化することで、都市部であっても日当り、風通し、見晴らしが良い憩いの空間をつくることができます。
取組み	1)屋上の耐荷重から設置可能な植栽基盤や植物を検討します。軽量土壌を使用することで植栽基盤の荷重を減らすことができます。 2)屋上は地上に比べ風が強いため、緑化範囲の外周部には耐風性のある常緑樹を配置します。

●:「防災・減災、都市環境の緩和に取り組む緑化」に関する効果 ○:その他の効果



④ 壁面を緑化する

効果	● 建築物の壁面を覆う植栽は断熱効果があり、その結果、空調の消費電力が抑えられるなど省エネ効果があります。特に西日の遮へいに効果的です。 ● 建築物壁面からの日差しの照り返しによる気温上昇を低減して、ヒートアイランド現象を緩和します。
取組み	1) 設置後のメンテナンスのしやすさも考慮して植栽位置を検討します。 2) つる性植物を壁面に登はんさせる場合は、使用する植物に適した補助資材を使用します(詳細はp.16)。 3) プランターを利用して壁面緑化をする場合は、緑化範囲に見合った土量が確保できるか留意します(壁面 1 m²あたり約 50 リットルの土量が目安となります)。

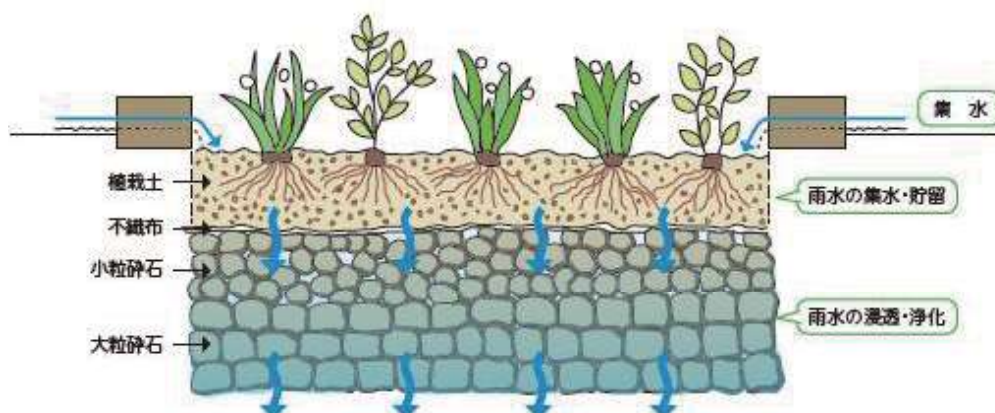


⑤ 緑で雨水を浸透させる(雨庭)

雨庭とは雨水を植栽地に集め、一時的に貯留し緩やかに地下へ浸透させる構造の緑化施設のことを言います。雨庭の特徴の一つは、植栽地が窪地であるか、雨樋の接続などによって雨水を集水する構造となっていることです。もう一つの特徴は、植栽基盤に浸透枡等を設けるか、十分な砕石層を整備するなどして、高い浸透能力を備えていることです。

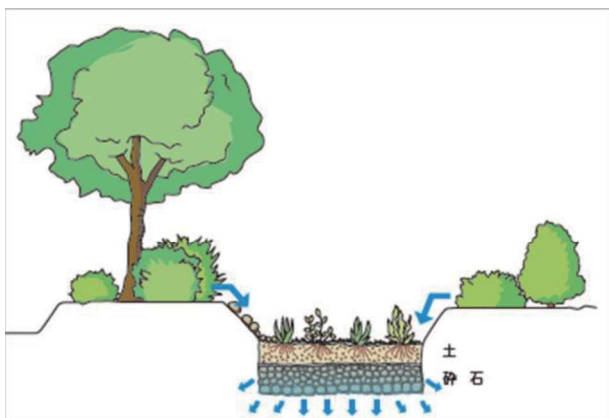
効果	● 敷地に降った雨水を集めて一時的に貯留し、地下へ浸透させることで、雨水流出量の抑制となり、豪雨などによる被害を軽減します。 ● 植物と土壌のフィルター機能により、雨水を浄化して自然界に還元することができ、健全な水循環となります。
取組み	1) 植栽地の周囲から雨水を集水できる構造とします。 2) 植栽基盤に砕石層などを設置し、貯留・浸透機能を高めます。

《雨庭の基本構造》



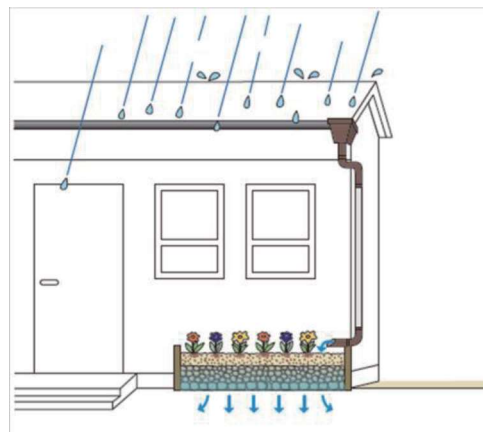
《集水構造の例》

植栽地に雨水を集水する構造には、次のようなものがあります。



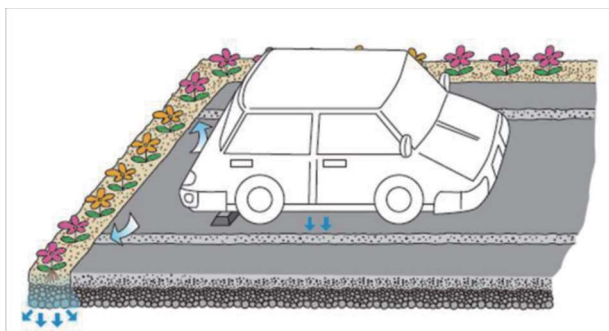
【窪地】

植栽地を窪地として、傾斜により集水します。
窪地が深いほど貯水機能が高まります。



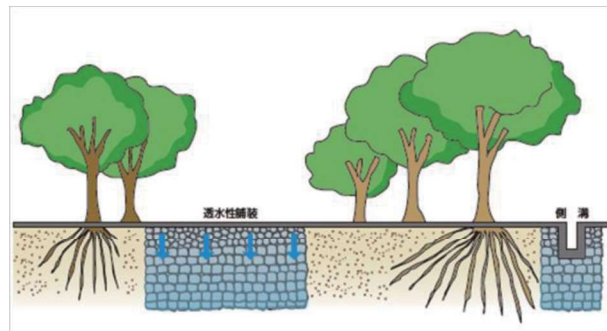
【雨樋の接続】

建物の雨樋を植栽地に接続することで集水します。



【緑溝】

植栽地の縁石を一部空けることで集水します。



【透水性舗装】

植栽地の周囲を透水性舗装とすることで、
地下の植栽地に集水します。

Ⅱ-3 憩いと交流の場となる緑化

人が緑と触れ合える空間を敷地内につくことで、その場を利用する人が心地よく憩うことができるほか、緑を通じて人が集まり、新たなにぎわいや交流の機会が生まれます。

人は本能的に自然を好むという考え方により、空間形成に植物、自然光、水などの自然環境の要素を取り入れることを「バイオフィリックデザイン」と言い、人が自然を近くに感じることで疲労やストレスが軽減し、幸福度や生産性、創造性の向上が期待できます。

① 木陰をつくる

効果	● 樹木のつくる木陰では、夏日の体感温度が7℃も低くなると言われています(※「まちなかの暑さ対策ガイドライン」(環境省)より)。ベンチなど人が滞留する場所に木陰をつくることで、日差しの暑さやまぶしさが和らぎ、快適に過ごせる空間ができます。
取組み	1)滞留空間に木陰ができるように、中・高木を配置します。 2)日差しが強くあたる向きを考慮して樹木を配置します。 3)木製ベンチは座り心地や樹木との親和性が高いことからおすすめです。



木陰空間は樹木の配置だけでなく、ベンチの座りやすさや見える景色への配慮が重要です。



日差しの向きから、どこに木陰ができるか把握して、ベンチの配置を決めましょう。

② 四季の変化をつける

効果	● 様々な樹種を組み合わせることで、四季に応じた変化を楽しむことができ、彩り豊かで魅力的な空間となります。
取組み	1)常緑樹と落葉樹をバランス良く組み合わせます。 2)花木や草花、紅葉の美しい樹木など季節を象徴する植物を積極的に取り入れます。 3)四季にわたって花や実などが鑑賞できるように、開花時期などを考慮して植物を選択します。



③ アプローチを緑で飾る

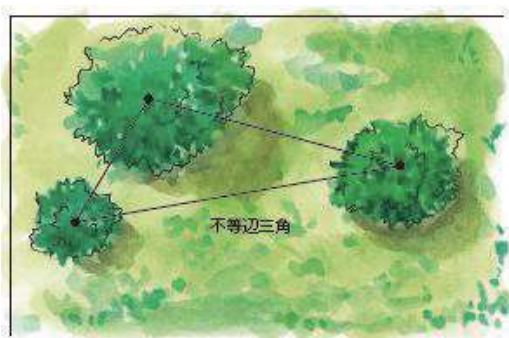
効果	● 建築物へのアプローチ部分を緑化することで、歩行通路を際立たせるとともに、植物が人を出迎える楽しい空間をつくることができ、施設へ向かう期待感が増します。
取組み	1)施設入口へのアプローチの歩行動線沿いを樹木などで緑化します。 2)多様な花木や草花を組み合わせるほか、樹木の配植に変化をつけるなどして、彩りのある楽しい空間をつくります。



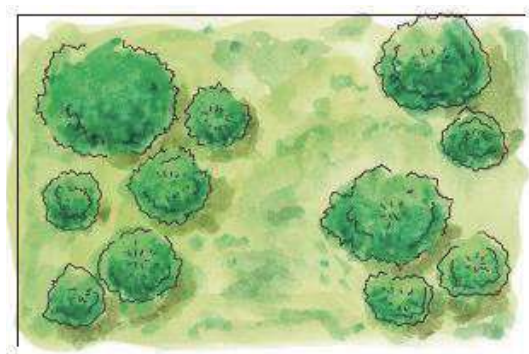
④ 緑でおもてなしを演出する

効果	● 見る人を楽しませる目的で丁寧に作り上げた緑化空間は、来訪者を歓迎するおもてなしの演出をすることができます。 ● おもてなし緑化に来訪者が惹きつけられて心地よさを感じることで、施設のイメージアップになり、滞留機能も向上します。
取組み	1)施設の入り口付近など視認性の高い場所で、人の目線の高さ(1.5m)を意識して、見えやすい位置を緑化します。 2)人が楽しめるデザインとするため、植物の配置間隔や高さの変化など植栽配置の工夫と、花の彩りや香りを感じるなど植栽内容の工夫を組み合わせます。

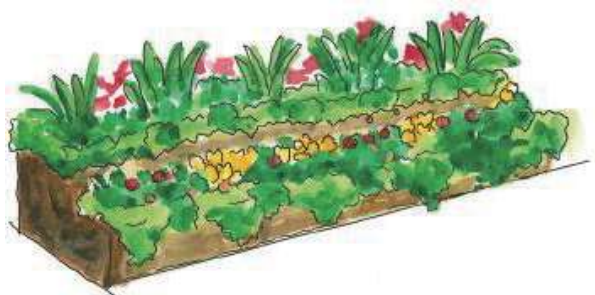
≪植栽配置の工夫≫



【不等辺三角形配置により奥行感を出す】



【植栽のボリュームにメリハリをつける】

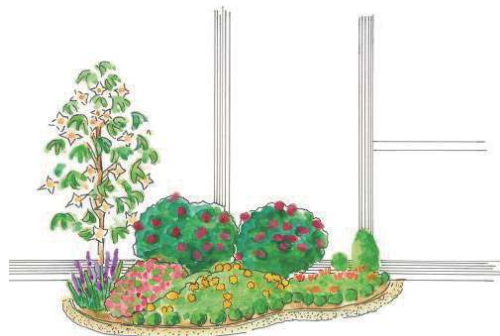


【勾配をつけて立体感を出す】



【段差を活用して立体感を出す】

≪植栽内容の工夫の例≫



【花木や草花により彩り豊かにする】

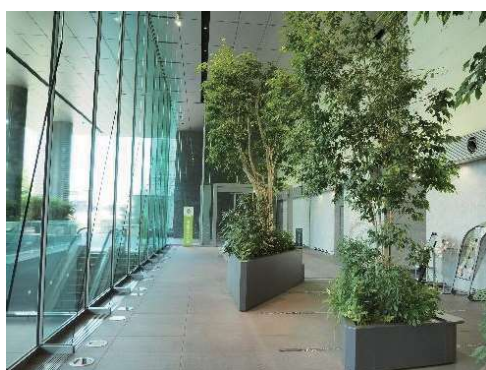


【香りを楽しめる植栽構成とする】

⑤ 屋内を緑化する

効果	● 屋内に緑化空間があることで、施設内で過ごす人が緑を近くに感じられ、憩いの空間となります。また、屋内のため冬場でも滞在しやすい緑化空間となります。 ○ 建築物の内外の緑が視覚的につながると、緑豊かな印象が強まります。
取組み	1) 吹き抜けなどにより植物の生育に十分な採光が確保できる場所に配置します。 2) 不特定多数の人が通り抜けや、滞留ができる場所に配置します。 ※緑化計画では屋内緑化を「十分な採光が確保できる大規模な吹き抜けのある場所で、日常一般に開放される場合」についてのみ、緑化面積として算入することができます。 3) 屋内の緑地が建物外からも見えるようガラス張りなどにして、建物内外の緑の連続性を意識して配置します。

●:「憩いと交流の場となる緑化」に関する効果 ○:その他の効果



⑥ 利用しやすい芝生広場をつくる

効果	● 芝生広場はレクリエーションや休養の場として利用して健康づくりができるほか、人が芝生に直接触れることによるリラックス効果があります。 ● イベントの開催により人々が集まる交流の場となり、地域の活性化にもつながります。 ○ オープンな空間であるので、緊急時の一時避難場所としても活用できます。
取組み	1) 利用しやすい芝生広場とするため、人が立ち寄りやすい位置に配置し、利用目的を想定した大きさとしします。また、車道や駐車場などからは距離を空けることで安全性を確保します。 2) 踏圧による芝生の枯損を防ぐため、なるべく踏圧に強い芝生を使用するほか、芝生に立ち入らずに養生する期間も定期的に設定します。 3) 夏芝は比較的暑さには強いですが、冬季には休眠して枯れます。冬芝は暑さには弱いですが、冬でも枯れずに緑色を保ちます。夏芝の上から冬芝の種を蒔くことで(オーバーシーディング)、一年を通じて芝生の緑を保つこともできます。
夏芝の例:ノシバ、コウライシバ、バミューダグラス、セントオーガスチングラス 冬芝の例:ケンタッキーブルーグラス、ペレニアルライグラス、トールフェスク	

●:「憩いと交流の場となる緑化」に関する効果 ○:その他の効果

⑦ 水景施設をつくる

効果	● 緑化空間に池や水流といった水景施設が加わることで、水のせせらぎが訪れる人の癒しとなり、その場所の魅力が一層高まります。 ● 夏場の体感気温が涼しくなり、快適な空間となります。
取組み	1)人が立ち入ることができる緑化空間に、池や水流、噴水などの水景施設を設置し、安全対策を講じます。 2)水質の適正管理のために、水循環の設備を設置します。



【コミュニティ花壇】



【ヒーリングガーデン】

⑧ 緑を通じた活動の場をつくる

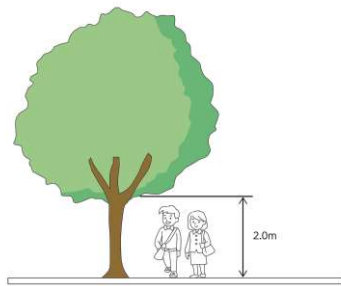
効果	● 緑化空間を活用することで、緑を通じた交流や環境学習、健康増進などの効果があります。
取組み	1)利活用の目的に合わせて、明確なコンセプトをもった緑化計画を立てます。 2)利活用の主催者、参加者、頻度などを想定して計画を立てます。
参考例	I)コミュニティ花壇 マンションなどに花壇を設置し、草花のデザインや日常管理を入居者が参加して行うことで、緑を通じたコミュニティが形成されます。草花に限らず、ハーブや農作物を育てて楽しむこともできます。 II)ヒーリングガーデン 緑に包まれた空間は、五感を通じて人に癒しを与えます。病院や福祉施設などで、四季の変化や空間の明るさ、歩きやすさなどを工夫したヒーリングガーデンを設置して、リハビリスペースとして利用できます。植物を鑑賞するだけでなく、園芸を行うことも心身の癒しやリハビリとなります。 III)ビオトープ 多種多様な植栽や水環境の設置などにより、多くの生き物の生育空間となるようなビオトープを設置することで、生き物観察など環境学習の場として利用できます。

⑨ 快適で安全な植栽配置を考える

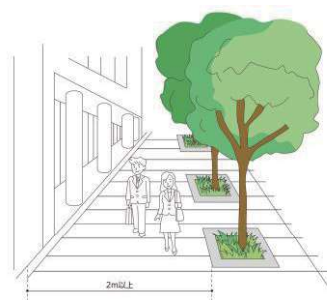
植栽の配置によっては人の通行を妨げたり、交通上の死角をつくってしまうことがあります。植栽が人の活動を妨げてしまわないよう、歩行動線や人の視界などに配慮して、快適で安全な空間となるように植栽配置を検討します。

効果	● 人が歩きやすく、滞在しやすい快適な空間となります。 ● 見通しや明るさを確保することで、安全で安心な空間となります。
取組み	1)敷地の出入口から施設入口までのアプローチや敷地内の通路などの歩行動線を妨げることがないように植栽を配置して、幅員を確保します(2m以上推奨)。歩行動線の近くに樹木を植栽する場合は、樹木の枝下高さの確保や(2m以上推奨)、ツリーサークルの使用などにより、歩きやすくなるように配慮します。 2)一般利用が可能な滞留空間などでは、人が立入りやすい印象とするため、道路との間を遮へいするような植栽は避け、見通しの確保や出入りのしやすい設えとします。 3)車両出入口付近などでは、植栽によって死角がつくられないように、高さや位置を調整して、安全性に配慮します。 4)避難通路となる窓先空地や、植栽や設備の管理・点検に必要な通路を植栽によって塞がないようにします。 5)歩行者の視線やベンチなどの視点場からの景色を考慮して、人が見たいもの(見せたいもの)を植栽が遮ってしまわないように配慮します。

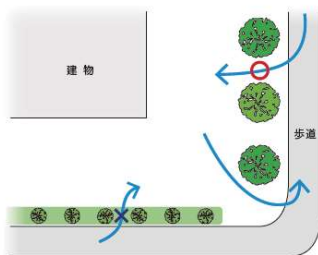
《植栽配置の配慮事項》



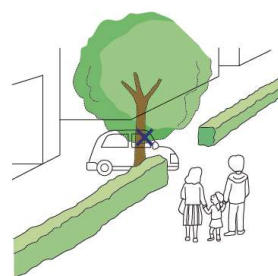
【歩行のための枝下高さを確保する】



【歩行幅員を確保する】



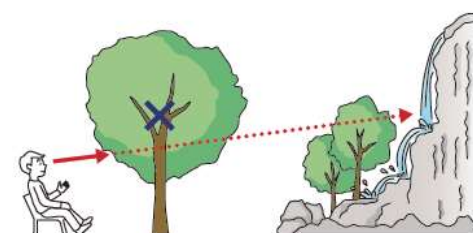
【開放的な出入口を確保する】



【車両の死角をつくらない】



【必要な通路を確保する】



【視点場からの景色を遮らない】

理念Ⅲ「地域と協調する緑化」を実現するために

Ⅲ-1 地域の生態系に配慮した緑化

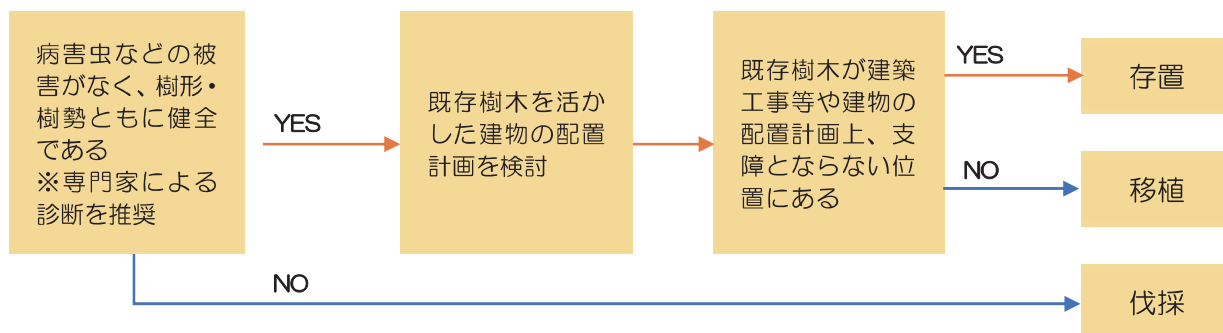
仙台は、奥羽山脈から太平洋岸までの広がりの中に、森林や里地里山、市街地のみどり、農地や河川など、多様な自然環境がつながりをもって分布しています。こうした多様な自然環境と、そこに棲む多くの種類の生き物の営みは互いに関わりをもっており、その生態系のはたらきによって、きれいな空気や水、食料などがもたらされて、私たちの暮らしを支えています。地域の生態系を大切にするため、建築計画においても、その敷地や周辺環境の生態系に配慮することが重要となります。

① 既存樹木を保全する

樹木の寿命は人よりも長く、人は昔から樹木を何かの記念や目印、またはシンボルや畏敬の対象としてきました。年月をかけて生育してきた樹木は、その土地の歴史を刻むとともに風格を備え、地域の人々に親しまれます。建築計画にあたって敷地内に既存樹木がある場合は、可能な限り樹木を保全します。

効果	● 年月を重ねた貴重な樹木を守ることができ、その土地の景観も同時に保全することができます。 ● 既存樹木とその周りの場所を棲みかとしている生き物を守ることができます。
取組み	1) 枯損木や倒木のおそれのある危険木を除いては、可能な限りその場所で保全します。保全する樹木の根が、工事車両などの踏圧を受けないように保護します。 2) 建築計画などにより樹木の存置が困難な場合は、敷地内での移植を検討し、移植に適した時期に計画的に行います。移植木が根付くまでは、灌水するなどして養生をします。

【既存樹木の保全検討フロー図】



●:「地域の生態系に配慮した緑化」に関する効果 ○:その他の効果

② 郷土種を使用する

効果	● 郷土種は自然環境との親和性が高く、地域固有の生態系を守ることになります。 ● 仙台の気候風土に適しているため、他の植物に比べ気候条件による生育不良のリスクが低くなります。
取組み	1) 樹種を選ぶにあたって郷土種を取り入れます。 2) 特定外来生物や繁殖力が旺盛な外来種など、生態系に影響を及ぼすおそれのある植物は使用しません。

【仙台の郷土種の例】

アオキ	ウメモドキ	ケヤキ	スダジイ	ネムノキ	ヤブデマリ
アオハダ	ウラジロガシ	コナラ	ソヨゴ	ハクウンボク	ヤマザクラ
アキグミ	エゴノキ	コハウチワカエデ	タブノキ	マサキ	ヤマツツジ
アラカシ	エドヒガン	コブシ	トチノキ	マンサク	ヤマハンノキ
イタヤカエデ	エノキ	サラサドウダン	ナツツバキ	ミヤギノハギ	ヤマブキ
イチイ	カクレミノ	シナノキ	ナツハゼ	ムラサキシキブ	ヤマボウシ
イヌシデ	カツラ	シモツケ	ニシキギ	モミ	ユキヤナギ
ウツギ	クリ	シラカシ	ネズミモチ	ヤブツバキ	リョウブ

【生態系に影響を及ぼすおそれのある植物の例】

トウネズミモチ、ツルニチニチソウ、ヒメイワダレソウ、ヒイラギナンテン、ニセアカシア、モウソウチク
 「我が国の生態系に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(環境省・農林水産省)」より抜粋

③ まとまった緑地を設ける

効果	● ひとまとまりの大きな緑地は、生き物の棲み処や移動経路となりやすく、地域にとって豊かな生態系を形成することができます。
取組み	1) まとまったスペースを確保して、地被植物から高木までの階層的で多様な植栽内容とします。 2) 自然な見た目となるよう、樹木を直線的な配列とせず、不規則に配置します。

【鳥や蝶などの好む食餌木の例】

アオキ、アオハダ、アキグミ、イヌツゲ、ウメモドキ、ウラジロガシ、エノキ、オオヤマザクラ、ガマズミ、コナラ、サルスベリ、ニシキギ、マユミ、モチノキ、モッコク、ユキヤナギ、ユズリハ



Ⅲ-2 地域の景観に調和する緑化

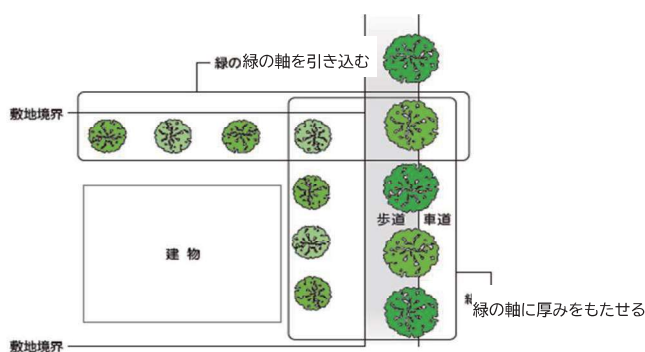
その土地らしい緑化というものは個々の敷地だけで表現されるものではなく、その場所の街並みや周囲の自然環境などが一体となって表れてくるものです。仙台の市街地の周囲には、青葉山や大年寺山などの丘陵地が存在し、さらに広瀬川や七北田川などの清流がまちに潤いを与えています。まちなかには、青葉通や定禅寺通に代表される美しい街路樹が並び、公園や社寺林の緑地は緑の拠点となっています。こうした地域のみどりや街並みとの調和を図ることで、仙台らしい緑化が実現されます。

① 周囲のみどりと連続させる

効果	● 敷地内の植栽が周囲のみどりと連続することで、スケールの大きな緑となり、通りに緑豊かな景観が形成されます。 ○ 敷地内外の緑がつながることで、生き物の移動経路であるコリドーが形成されます。
取組み	1) 敷地周辺に目を向け、近くの公園や街路樹、民有地の緑、自然環境などの周囲のみどりの特徴を把握します。 2) 通りを歩く人に周囲のみどりとの連続が感じられるよう、樹種や樹高、配置を検討します。

●:「地域の景観に調和する緑化」に関する効果 ○:その他の効果

《みどりを連続させる手法の例》



【街路樹と連続させる】



【公園の緑と隣り合わせる】



【隣地の緑とのリレーデザインとする】



【丘陵地を背景として意識する】

② 街並みとの調和を図る

効果	● 周辺地域の眺望に配慮して植栽のスケールを検討することで、街並み全体や景観のシンボルを引き立てることができます。 ● 街並みと調和した樹種の選定などにより、地域のもつ個性や伝統を尊重することができ、周辺地域と一体となって風情のある景観を醸成します。
取組み	1)敷地周辺に目を向け、周辺地域の建築物や自然環境などが形成する街並みの個性を把握します。 2)街並み景観に調和するよう、樹種や樹高、緑化手法を工夫します。

《街並みと調和する緑化手法の例》



【ケヤキ並木と共に紅葉する】



【社寺林と一体的なボリュームのある植栽】



【河川流域の自然と馴染む広葉樹】



【建築物を緑で覆い、圧迫感を軽減する】

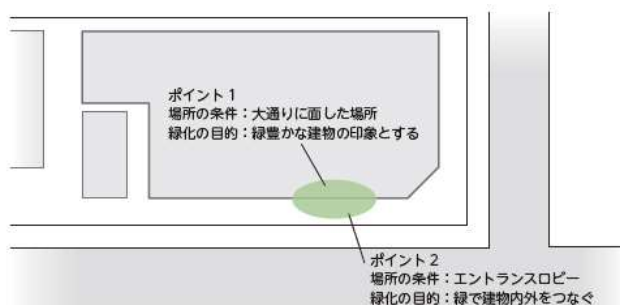
第二章 緑化計画の参考例

この章では、建築物の用途に応じた緑化計画の参考例を示します。緑化計画立案にあたってのヒントとしてご活用ください。

1. オフィスビルの場合

都心部などの中高層オフィスビルを緑化する場合、建築物の正面が緑豊かな印象であると、環境配慮等への取組みが見て分かりやすく、企業のイメージアップにもつながります。

大通りに面した場所やエントランス付近は、建築物の印象を決定づけるので、こうした場所を積極的に緑化することが効果的です。



【ポイント1】

- ・「接道部を緑化する」
- ・「階層的に緑化する」
- ・「屋上を緑化する」

建築物の正面に、足元、目線の高さ、頭上とそれぞれ緑化することで、限られたスペースであっても緑豊かな印象を与える緑化をすることができます。



【ポイント2】

- ・「壁面を緑で彩る」
- ・「屋内を緑化する」

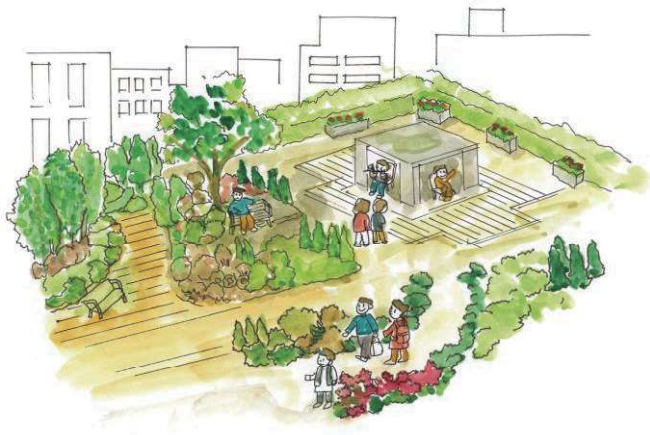
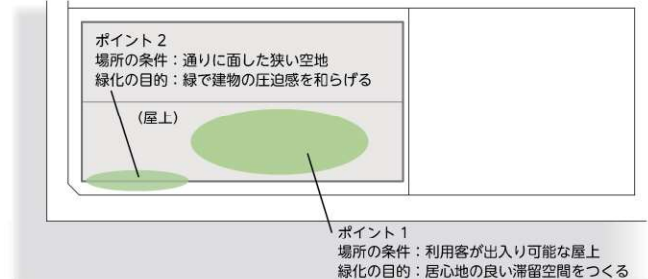
壁面と屋内を緑化して、視覚的にも緑が連続することで、建築物を出入りする人にとって心地よい印象となります。

2. 商業ビルの場合

都心部などの商業ビルで建ぺい率が高く、空地面積が少ない場合には、屋上や壁面を有効的に緑化することが考えられます。

出入り可能な屋上の緑化を工夫することで、施設の利用客にとって居心地の良い滞在空間をつくることができます。

建築物の正面では、壁面緑化も活用して立体的な緑化とすることで、圧迫感の軽減にもなります。



【ポイント1】

- ・「屋上を緑化する」
- ・「木陰をつくる」
- ・「四季の変化をつくる」

屋上を緑化することで都心部であっても見晴らしの良い庭園をつくることができます。木陰にベンチを設置するほか、花木や草花などを植栽することで、回遊性が高まります。



【ポイント2】

- ・「壁面を緑で彩る」
- ・「緑でおもてなしを演出する」

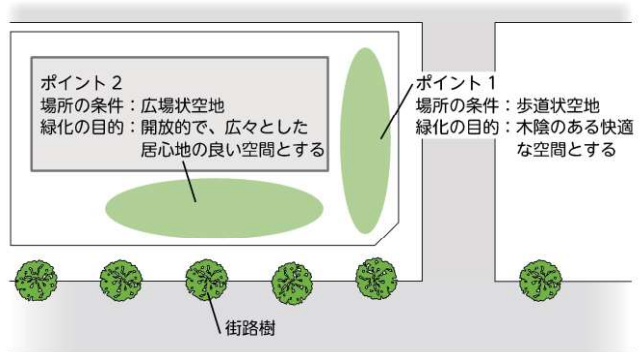
限られたスペースであっても地表面と壁面の緑化を組み合わせることで、デザイン性の高い緑化空間をつくることができます。

3. 公開空地の場合

公開空地は、歩行者が自由に通行や利用ができる空間として設置されるものであるため、緑化においても、道路との連続性や見通しの確保などに留意が必要です。

歩道状空地付近に緑化する場合は、歩行空間を十分確保しつつ、木陰をつくると快適になります。

広場状空地では、居心地の良さを向上させる緑化が効果的です。



【ポイント1】

- ・「接道部を緑化する」
- ・「緑で雨水を浸透させる」
- ・「周囲のみどりと連続させる」

街路樹による緑の軸を引き込むように、高木を配置して緑を連続させます。枝下高さや歩行幅員の確保により歩きやすさに配慮します。また透水性舗装により降雨時に水たまりができず、雨水流出の抑制にもなります。

【ポイント2】

- ・「シンボルツリーを植える」
- ・「木陰をつくる」
- ・「緑でおもてなしを演出する」

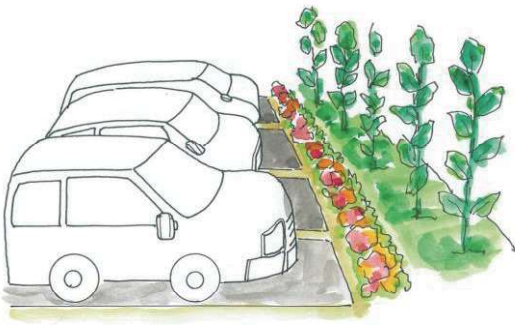
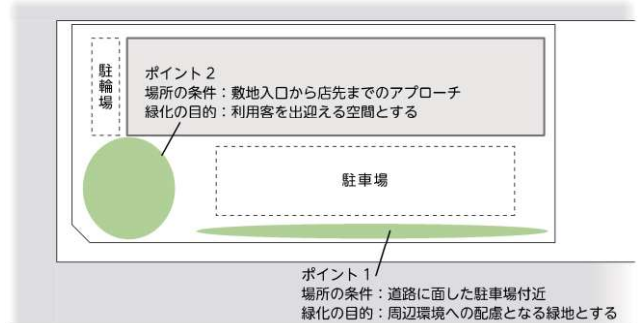
広場としての滞留機能を高めるように、アイストップとなるシンボルツリーや木陰をつくる樹木の植栽、植栽の見え方を工夫したおもてなし緑化により、居心地の良い空間をつくります。



4. 大規模店舗の場合

郊外の大規模店舗では、駐車場を広く確保する必要がありますが、駐車場と道路との間の場所を緑化することで、良好な街並みをつくるとともに、緑化を工夫することで環境配慮にもなります。

店先までのアプローチでは、店舗の利用客を出迎えるような緑化が効果的です。



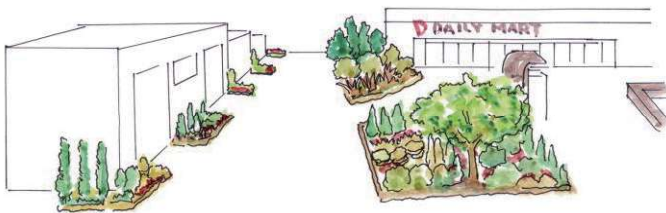
【ポイント1】

- ・「樹木で緩衝をつくる」
- ・「緑で雨水を浸透させる」

生垣による防音効果と目隠しで周囲の住環境への配慮をし、駐車場に降った雨水を集水・浸透する緑溝により雨水流出量を抑制します。

【ポイント2】

- ・「アプローチを緑で飾る」
- ・「緑でおもてなしを演出する」

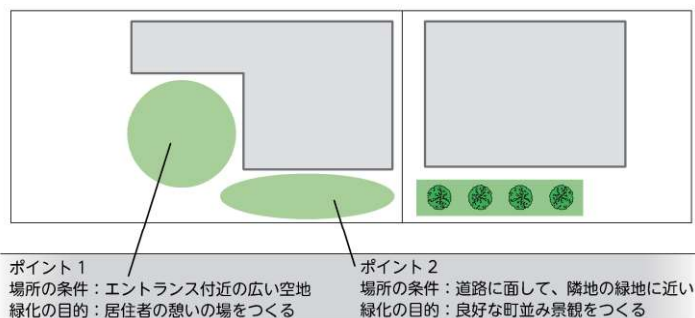


お店の入り口に向かうまでのアプローチ脇を、彩り良く、樹種や樹形に変化をつけながら緑化することで、来訪者の期待を高めます。

5. 共同住宅の場合

共同住宅では、居住者同士の交流が生まれるような憩いの空間として、緑化すると効果的です。

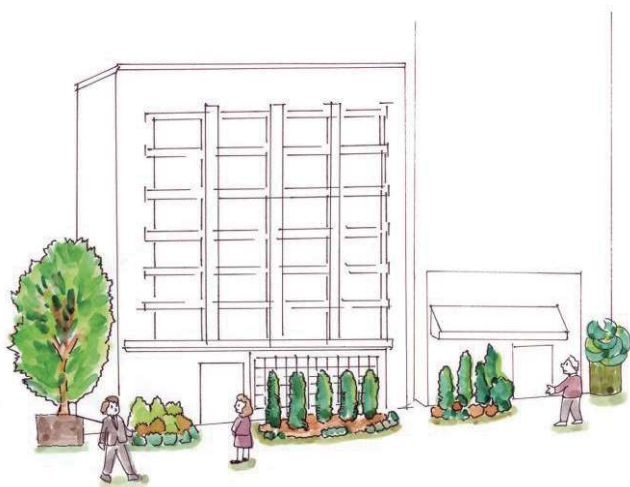
敷地の接道部では、隣地や周辺の緑との連続性を意識して緑化することで、良好な街並み景観をつくることができます。



【ポイント1】

- ・「シンボルツリーを植える」
- ・「緑を通じた活動の場をつくる」

エントランス広場に季節を感じるシンボルツリーや、住民参加でつくるコミュニティ花壇を設置して、憩いと交流の場をつくります。



【ポイント2】

- ・「接道部を緑化する」
- ・「階層的に緑化する」
- ・「周囲のみどりと連続させる」

隣地の接道部の緑地と連続するように緑化することで、緑のスケールが大きくなり、通りの景観が向上します。

巻 末 資 料

樹木等の特性一覧表

表中の用語の定義は次のとおりです。

- 常緑樹、常緑 … 一定の期間にまとまって葉が落ちるのではなく、一年を通じて葉がある植物
- 落葉樹、落葉 … 秋から冬にかけて全ての葉が落ちる植物
- 陽樹、陽生 … 日当りの良い環境でないと生育が難しい植物
- 陰樹、陰生 … ある程度の日陰でも生育ができる植物
- 花期 … 花が咲く時期(花木等についてのみ記載)
- 郷土種 … 仙台に自生している、または古くから親しまれている樹種
- 食用可否 … 実等が食べられる植物※
- 夏芝 … 耐暑性が高いが、耐寒性が低く、冬季は葉が茶色くなる芝
- 冬芝 … 耐暑性は低いが、耐寒性が高く、冬季も葉が緑色を保つ芝
- 踏圧耐性 … 踏圧への耐性
- 巻つる型 … ワイヤーやメッシュフェンス等の隙間に巻き付いて登はんするつる性植物
- 付着型 … 壁面等に付着して登はんするつる性植物
- 下垂型 … 巻付きや付着はしないが、下垂することで壁面等を覆うことができるつる性植物

※食用可の植物については、生食だけではなく加工しなければ食べられないものも含まれているため、事前に十分に調べてから摂取しましょう

【樹木】

種名()内は品種名	葉	日照	花期	郷土種	食用可否	備考
アオキ	常緑樹	陰樹		○		
アオダモ 【別名:コバノトネリコ】	落葉樹	陽樹				
アオハダ	落葉樹	陰樹		○		
アカエゾマツ	常緑樹	陰樹				
アカガシ	常緑樹	中間		○		
アカシデ	落葉樹	陽樹		○		
アカマツ	常緑樹	陽樹		○		
アキグミ	落葉樹	中間		○	○	
アキノレ	落葉樹	陽樹				
アジサイ類	落葉樹	中間	夏			
アズキナシ	落葉樹	中間		○		
アスナロ	常緑樹	陰樹				
アセビ	常緑樹	陰樹	春			
アブラチャン	落葉樹	陰樹		○		
アベマキ	落葉樹	陽樹		○		
アベリア	常緑樹	陰樹	夏～秋			
アメリカザイフリボク 【別名:ジューンベリー】	落葉樹	陽樹	春		○	
アラカシ	常緑樹	中間		○		
アリゾナイトスギ (ブルーアイス)	常緑樹	陽樹				
イタヤカエデ	落葉樹	中間		○		
イチイ 【別名:アララギ】	常緑樹	中間		○		
イチヨウ	落葉樹	陽樹			○	
イヌエンジュ	落葉樹	陽樹	夏	○		
イヌシデ	落葉樹	陽樹		○		
イヌツゲ	常緑樹	中間		○		
イヌツゲ(キンメツゲ)	常緑樹	中間				
イヌツゲ(マメツゲ)	常緑樹	陰樹				
イヌマキ	常緑樹	陽樹			○	
イロハモミジ	落葉樹	中間				
ウツギ	落葉樹	中間	初夏	○		
ウバメガシ	常緑樹	中間				
ウメ類	落葉樹	陽樹	春		○	
ウメモドキ	落葉樹	中間		○		
ウラジロガシ	常緑樹	中間		○		
エゴノキ	落葉樹	陽樹	初夏	○		
エゾアジサイ	落葉樹	中間	夏	○		

種名()内は品種名	葉	日照	花期	郷土種	食用可否	備考
エドヒガン	落葉樹	陽樹	春	○		
エニシダ	落葉樹	陽樹	初夏			
エノキ	落葉樹	陽樹		○	○	
オオシマザクラ	落葉樹	陽樹	春			
オオデマリ	落葉樹	中間	初夏			
オオムラサキツツジ	常緑樹	中間	初夏			
オオヤマザクラ	落葉樹	陽樹	春	○		
オタフクナンテン	常緑樹	陰樹				
オリーブ	常緑樹	陽樹				
カイヅカイブキ	常緑樹	陽樹				
カキノキ	落葉樹	陽樹			○	
カクレミノ	常緑樹	陰樹		○		
カシワ	落葉樹	陽樹				
カツラ	落葉樹	陽樹		○		
カナメモチ (ベニカナメ)	常緑樹	陽樹				
ガマズミ	落葉樹	中間	初夏		○	
カヤ	常緑樹	陰樹		○	○	
カルミア	常緑樹	中間	初夏			
カンツバキ	常緑樹	陰樹	冬			
キャラボク	常緑樹	陽樹				
キョウチクトウ	常緑樹	中間	夏			
キンモクセイ	常緑樹	陽樹	秋			
ギンモクセイ	常緑樹	陽樹	秋			
キンロバイ	落葉樹	陽樹	夏			
クチナシ	常緑樹	陰樹	夏			
クヌギ	落葉樹	陽樹		○		
クリ	落葉樹	陽樹		○	○	
クルメツツジ	常緑樹	陰樹	初夏			
クロガネモチ	常緑樹	中間				
クロマツ	常緑樹	陽樹				
クロモジ	落葉樹	陰樹				
ゲッケイジュ	常緑樹	陽樹				
ケムリノキ 【別名:スモークツリー】	落葉樹	陽樹	夏			
ケヤキ	落葉樹	陽樹		○		
コウヤマキ	常緑樹	中間				
コクチナシ	常緑樹	中間	初夏			
コデマリ	落葉樹	中間	春			

種名()内は品種名	葉	日照	花期	郷土種	食用可否	備考
コナラ	落葉樹	陽樹		○		
コノテガシワ (エレガンテシマ)	常緑樹	中間				
コハウチワカエデ	落葉樹	中間		○		
コブシ	落葉樹	陽樹	春	○		
ゴヨウマツ	常緑樹	陽樹		○		
コロラドビャクシン (スカイロケット)	常緑樹	陽樹				
コロラドビャクシン (ブルーヘブン)	常緑樹	陰樹				
サカキ	常緑樹	陰樹				
サザンカ	常緑樹	中間	冬			
サツキ	常緑樹	陰樹	初夏			
サトザクラ	落葉樹	陽樹	春			
サラサドウダン	落葉樹	中間	初夏	○		
サルスバリ	落葉樹	陽樹	夏			
サワラ	常緑樹	中間				
サワラ (フィリフェラオーレア)	常緑樹	陽樹				
サンゴジュ	常緑樹	中間				
サンシュユ	落葉樹	陽樹	春		○	
サンショウ	落葉樹	中間		○	○	
シダレザクラ類	落葉樹	陽樹	春			
シナノキ	落葉樹	陽樹		○		
シモツケ	落葉樹	中間	夏	○		
シャクナゲ類	常緑樹	陰樹	初夏			
シャリンバイ	常緑樹	陰樹	初夏			
シラカシ	常緑樹	中間		○		
シラカバ	落葉樹	陽樹				
シロダモ	常緑樹	中間		○		
ジンチョウゲ	常緑樹	陰樹	春			
スダジイ	常緑樹	中間		○	○	
セイヨウイボタ【別名:プリベット】	常緑樹	中間	初夏			
セイヨウカナメ (レッドロビン)	常緑樹	陽樹				
セイヨウシャクナゲ類	常緑樹	中間	初夏			
セイヨウツゲ【別名:ボックスウッド】	常緑樹	陰樹				
セイヨウハコヤナギ【別名:ポプラ】	落葉樹	陽樹				
ソメイヨシノ	落葉樹	陽樹	春			
ソヨゴ	常緑樹	陰樹		○		
タブノキ	常緑樹	中間		○		
タラヨウ	常緑樹	中間				

種名()内は品種名	葉	日照	花期	郷土種	食用可否	備考
ダンコウバイ	落葉樹	陰樹				
ツリバナ	落葉樹	陰樹	初夏	○		
ドイツトウヒ	常緑樹	陰樹				
トウカエデ	落葉樹	陽樹				
ドウダンツツジ	落葉樹	陽樹	春			
トキワマンサク	常緑樹	中間	初夏			
トチノキ	落葉樹	中間	初夏	○	○	
トベラ	常緑樹	陰樹	初夏			
ナツツバキ	落葉樹	陽樹	初夏	○		
ナツハゼ	落葉樹	中間		○		
ナナカマド	落葉樹	陽樹	初夏	○		
ナンテン	常緑樹	陰樹				
ニイタカビャクシン (ブルーカーペット)	常緑樹	陽樹				
ニオイヒバ (エメラルドグリーン、スマラグ)	常緑樹	陽樹				
ニオイヒバ (グリーンコーン)	常緑樹	陽樹				
ニオイヒバ (ヨーロッパゴールド)	常緑樹	陽樹				
ニシキギ	落葉樹	陰樹		○		
ネコヤナギ	落葉樹	中間		○		
ネズミモチ	常緑樹	中間	夏	○		
ネムノキ	落葉樹	陽樹	夏	○		
ハイネズ (ブルーパシフィック)	常緑樹	陽樹				
ハイノキ	常緑樹	陰樹	春			
ハイビャクシン	常緑樹	陽樹				
ハクウンボク	落葉樹	陽樹	初夏	○		
ハクモクレン	落葉樹	陽樹	春			
ハコネウツギ	落葉樹	中間	夏			
ハナズオウ	落葉樹	中間	春			
ハナミズキ	落葉樹	陽樹	春			
ハマナス	落葉樹	陽樹	夏		○	
ハマヒサカキ	常緑樹	陰樹				
ハルニレ	落葉樹	陽樹		○		
ヒイラギ	常緑樹	中間				
ヒイラギナンテン (マホニアコンフューサ)	常緑樹	陰樹				
ヒイラギモクセイ	常緑樹	中間				
ヒサカキ	常緑樹	陰樹				
ヒノキ	常緑樹	陰樹				
ヒマラヤスギ	常緑樹	陽樹				

種名()内は品種名	葉	日照	花期	郷土種	食用可否	備考
ヒメウツギ	落葉樹	中間	初夏			
ヒメシャラ	落葉樹	陽樹	夏			
ヒュウガミズキ	落葉樹	中間	春			
ヒラドツツジ	常緑樹	陽樹	初夏			
ブナ	落葉樹	中間		○		
プラタナス	落葉樹	陽樹				
ブルーベリー	落葉樹	陽樹	春		○	
ブンゲンストウヒ	常緑樹	陽樹				
ベニバナシャリンバイ	常緑樹	中間	初夏			
ベニバナトチノキ	落葉樹	陽樹				
ホオノキ	落葉樹	陽樹	初夏	○		
マサキ	常緑樹	陰樹		○		
マサキ (キンマサキ)	常緑樹	陰樹				
マテバシイ	常緑樹	中間			○	
マユミ	落葉樹	陰樹		○		
マンサク	落葉樹	陰樹	冬	○		
マンリョウ	常緑樹	陰樹				
ミズナラ	落葉樹	陽樹		○		
ミツマタ	落葉樹	中間	春			
ミヤギノハギ	落葉樹	陽樹	夏～秋	○		
ミヤマガマズミ	落葉樹	中間	初夏	○		
ムクゲ	落葉樹	陽樹	夏～秋			
ムクノキ	落葉樹	陽樹				
ムラサキシキブ	落葉樹	中間	夏	○		
メギ	落葉樹	中間		○		
メタセコイア	落葉樹	陰樹				
モクレン	落葉樹	陽樹	春			
モチノキ	常緑樹	陰樹				
モッコク	常緑樹	中間				
モミ	常緑樹	陰樹		○		
モミジバフウ	落葉樹	陽樹				
モントレーイトスギ (ゴールドクレスト)	常緑樹	陽樹				
ヤシャブシ	落葉樹	陽樹				
ヤツデ	常緑樹	陰樹				
ヤブツバキ	常緑樹	陰樹	冬	○	○	
ヤブデマリ	落葉樹	中間	初夏	○		
ヤマザクラ	落葉樹	陽樹	春	○		

種名()内は品種名	葉	日照	花期	郷土種	食用可否	備考
ヤマツツジ	半落葉	陰樹	春	○		
ヤマハンノキ	落葉樹	陽樹		○		
ヤマブキ	落葉樹	陰樹	春	○		
ヤマボウシ	落葉樹	陽樹	夏		○	
ヤマモミジ	落葉樹	中間		○		
ヤマモモ	常緑樹	中間			○	
ユキヤナギ	落葉樹	中間	春	○		
ユズリハ	常緑樹	陰樹		○		
ライラック	落葉樹	中間	初夏			
リュウキュウツツジ	常緑樹	陽樹	初夏			
リョウブ	落葉樹	陽樹		○		
レイランディ	常緑樹	陽樹				
レンギョウ	落葉樹	陽樹	春			
ロウバイ	落葉樹	中間	冬			

【地被類】

種名()内は品種名	葉	日照	花期	食用可否	備考
アガパンサス	常緑	陽生	夏		
アジュガ	常緑	陰生	春		
アヤメ	落葉	陽生	初夏		
イカリソウ	落葉	陰生	春		
オカメザサ	常緑	陰生			
キキョウ	落葉	中間	夏		
ギボウシ	落葉	陰生	夏		
クサツゲ	常緑	陰生			
クリーピングタイム	常緑	陽生	初夏		
クリスマスローズ	常緑	陰生	冬		
クローバー	落葉	中間	夏		
コグマザサ	常緑	陰生			
サルココッカ	常緑	陰生			
シバザクラ	常緑	陽生	春		
シマカンスゲ	常緑	陰生			
シャガ	常緑	陰生	春		
スギゴケ	落葉	陰生			
ススキ	落葉	中間			
セイヨウイワナンテン (レインボー)	常緑	陰生	初夏		
タイム	常緑	中間	初夏	○	
ツワブキ	常緑	陰生	冬		
ノシラン	常緑	陰生	夏		
ハラン	常緑	陰生			
ヒペリカム (カリシナム)	常緑	中間	初夏		
フッキソウ	常緑	陰生			
ベニシダ	常緑	陰生			
マツバギク	常緑	陽生	夏		
メキシコマンネングサ	常緑	陰生	初夏		
ヤブコウジ	常緑	陰生			
ヤブラン	常緑	陰生	夏		
ユキノシタ	常緑	陰生	夏		
ラベンダー	常緑	陽生	初夏		
リュウノヒゲ	常緑	陰生			
リュウノヒゲ (タマリユウ)	常緑	陰生			
ローズマリー	常緑	陽生	冬～春	○	

【芝】

種名	性質	日照	踏圧耐性	食用可否	備考
コウライシバ	夏芝	中間	中間		
セントオーガスチングラス【別名:イヌシバ】	夏芝	陰生	中間		
ノシバ	夏芝	中間	中間		
バミューダグラス【別名:ティフトン】	夏芝	陽生	強い		
ビロードシバ	夏芝	中間	弱い		
フェスク類	冬芝	陰生	中間		
ブルーグラス類	冬芝	陰生	中間		
ベントグラス類	冬芝	陰生	弱い		
ライグラス類	冬芝	陰生	弱い		

【つる性植物】

種名()内は品種名	葉	日照	花期	性質	食用可否	備考
アケビ	落葉	陽生	春	巻つる型	○	
オオイタビ	常緑	陰生		付着型	○	
カロライナジャスミン	常緑	陽生	春	巻つる型		
キツタ【別名:フユツタ】	常緑	陰生		付着型		
クレマチス	落葉	陽生	初夏	巻つる型		
クレマチス (アーマンディー)	常緑	陽生	春	巻つる型		
コトネアスター	常緑	陽生	初夏	下垂型		
スイカズラ	常緑	陽生	初夏	巻つる型		
ツキヌキニンドウ	常緑	陽生	夏	巻つる型		
ツルバラ	落葉	陽生	初夏	巻つる型		
ツルマサキ	常緑	陰生		付着型		
テイカカズラ	常緑	陰生	初夏	巻つる型		
テイカカズラ(ハツユキカズラ)	常緑	陽生	初夏	巻つる型		
ナツツタ	落葉	中間		付着型		
ノウゼンカズラ	落葉	陽生	夏	付+巻		
ビグノニア【別名:ツリガネカズラ】	常緑	陽生	初夏	付+巻		
ヘデラ【別名:アイビー】	常緑	陰生		付着型		
ムベ	常緑	中間		巻つる型	○	
モッコウバラ	常緑	陽生	初夏	巻つる型		

参考図書:緑化樹木ガイドブック/(財)建設物価調査会

宮城県植物目録 2000/宮城植物の会・宮城県植物誌編集委員会

仙台市優良建築物緑化認定制度「SENDAI GREEN BRAND」

「SENDAI GREEN BRAND」とは

優良な建築物緑化(建築敷地内の緑化)を SENDAI GREEN BRAND として認定します。仙台市内の建築物であれば、規模や用途に関わらず申請いただけます。既存建築物や計画段階のもの、個人住宅でも申請いただけます。

認定基準

認定基準は「建築物等緑化の質に関する評価基準」による点数に応じて、三つのランクに認定します。

点数	80 点以上 100 点未満	100 点以上 120 点未満	120 点以上
認定区分	SENDAI GREEN BRAND 一ツ星	SENDAI GREEN BRAND 二ツ星	SENDAI GREEN BRAND 三ツ星
ラベル			

※敷地面積が 1,000 m²未満の場合又は、戸建住宅の場合にはそれぞれ基準点が 10 点ずつ緩和されます。
(例:敷地面積 1,000 m²未満の戸建住宅の場合、60 点以上から認定対象)

認定によるメリット

(1)認定ラベルの発行

認定を受けた方には、認定書のほか認定ラベルを電子データにて発行します。発行された認定ラベルは当該建築物の PR 等にご使用いただけます。

(2)表彰

認定を受けた方は、仙台市の緑化功労者認定の対象となります。毎年 4 月に開催する「新緑祭」にて表彰式を行います。

(3)広報

認定を受けた建築物は、本 HP において優良建築物緑化として広報いたします。

(4)融資制度の利用

認定を受けることで、「仙台市中小企業融資制度(経済変動対策資金(GX 促進関連))」を利用できます。

申請の流れ

- ・既存建築物の場合:申請→書類審査→現地確認→認定書の交付
- ・新築建築物の場合:申請→書類審査→計画適合通知交付→施工→現地確認→認定書の交付



百年の杜づくりとは

本市は「杜の都」と呼ばれており、この緑豊かなまちの姿の原点は、今から約400年前までさかのぼります。仙台藩祖伊達政宗公が屋敷内に果樹や建築用材となる木を植えるように勧めてできた屋敷林、寺や神社の林、広瀬川や青葉山の緑が一体となって、まち全体が緑に包まれていたと言われています。第二次世界大戦時の仙台空襲で、まちの緑は消失してしまいますが、その後の復興により「杜の都」を支える緑は、青葉通や定禅寺通などの街路樹、青葉山公園や西公園などに代わっていきました。

「百年の杜づくり」とは、伝統ある「杜の都」の風土を生かし、市民・市民活動団体・事業者・行政が協働して、百年という時を味方に「みどりと共生する都市」を創造し、未来へ継承していく取り組みです。

ー「仙台市みどりの基本計画2021-2030」で定める基本理念・基本方針ー

基本理念

百年の杜づくりで実現する新たな杜の都
～みどりを育むひと、みどりが育むまち～

基本方針

1:みどりと共生するまち(自然環境保全・防災・減災など)

2:みどりで選ばれるまち(活力・経済など)

3:みどりを誇りとするまち(歴史文化・景観など)

4:みどりとともに人が育つまち(子育て・教育・コミュニティ・健康増進など)

5:みどりを大切にするまち(維持管理・普及啓発など)

【編集・発行】

仙台市建設局百年の杜推進部 百年の杜推進課

〒980-0802

仙台市青葉区二日町12-34二日町第五仮庁舎(オンワード樫山仙台ビル)4階

電話:022-214-8389 Fax:022-216-0637

E-mail:ken010240@city.sendai.jp

<https://www.city.sendai.jp/ryokukasuishin/greenguideline.html>

